

令和5年度 学校関係者評価結果報告書

太田情報商科専門学校（以下、本校とする）は、本校学則第4条、専修学校において準用する学校教育法第42条及び同施行規則第66条、第67条、第68条並びに「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、令和5年度における本校の学校運営の教育活動等に関して自己評価を行った。

次ページ以降に、項目ごとに学科による評価得点を記載した。また、現状の説明、補足事項、今後の課題、改善策も記した。各項目における評価は4段階評価とし、それぞれの項目に対する活動が適切であると評価できるものを4、ほぼ適切を3、やや不適切を2、不適切を1として評価した。

令和6年6月27日

学校法人 太田アカデミー



太田情報商科専門学校

1 はじめに

太田情報商科専門学校（以下、本校とする）は、本校学則第 4 条、専修学校において準用する学校教育法第 42 条及び同施行規則第 66 条、第 67 条、第 68 条並びに「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、令和 5 年度における本校の学校運営、教育活動等に関して自己評価を行った。各項目における評価は 4 段階とし、それぞれの項目に対する活動が適切であると評価できるものを 4、ほぼ適切を 3、やや不適切を 2、不適切を 1 として評価した。そして、これに基づき、令和 6 年 6 月 27 日（木）に学校関係者の評価を受け、各評価得点、委員の意見等を次ページ以降に記した。自己評価における採点、それにかかる補足・課題等は、別途公開資料「令和 5 年度自己評価結果報告書」に記載されているので、参照されたい。なお、本校の学校関係者評価委員は以下の通りである。

委員名（五十音順）	所属・役職
丸山 智晴 氏	群馬大学生生活協同組合 専務理事
荻原 孝浩 氏	株式会社 シモヤマ（本校卒業生）

また、学校関係者評価委員会には本校から以下の職員が臨席した。

氏 名	所属・役職
田鶴 大輔	太田情報商科専門学校 校長
石塚 康弘	太田情報商科専門学校 教務部 部長
三ツ井 慎吾	太田情報商科専門学校 教務部 科長
二重作 圭祐	太田情報商科専門学校 教務部 科長

2 自己評価

(1) 教育理念・目標

採点		昨年度	今年度
1	学校の理念、目的、育成人材像は定められているか	4	4
2	学校の理念、目的、育成人材像をもとに特色ある職業教育が行われているか	4	4
3	社会経済のニーズを踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3	3
4	学校の理念、目的、育成人材像は特色、将来構想などが学生、保護者に周知されているか	3	3
5	学科の教育目標、育成人材像は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか	3	3
補足・課題等			
<p>本校では以下の教育理念、教育目標を掲げ、人材育成を行っている。</p> <p>【教育理念】 高い専門技術を修得することに喜びを感じ、生き生きと自ら求めて学ぶ学生の育成を行う。また、豊かな心を磨き、高い技術と合わせて社会に貢献できる人材の育成を行うことで学生一人一人が豊かな人生を歩むことが出来る教育を行う。</p> <p>【教育目標】 豊かな人間性と知性、感性を備え 21 世紀をリードする有為な人材を育成する。</p> <p>また、本校の教育の特色として以下の点が挙げられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 放課後・長期休業中等を活用した国家試験・各種資格試験対策 2 豊かな人間性を養うための各種学校行事・特別授業等の実施 3 国際的な視野を養うための国内国外における研修旅行の実施 <p>これらは、本校のウェブサイト及び学校案内等の広報媒体に掲載し、広く社会に対して本校の目指す姿を開示している。また、オープンキャンパス、入学後のオリエンテーション及び保護者説明会等の機会を通じ、学生及び保護者への周知も努めている。</p> <p>学科等に対応する業界ニーズについては、各学科の実習担当者等との会議、懇談等にて意見聴取を行っている。</p>			
委員の意見等			
<p>・自己評価が妥当であるとの評価と、さらに評価を上げるための目標を持っており、今後もしっかりと取り組んでくださいとの意見をいただいた。</p>			

(2) 学校運営

採点		昨年度	今年度
1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	4
2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	4
3	運営組織や意思決定機能は規則的において明確化されているか、有効に機能しているか	4	4
4	人事、給与に関する規定は整備されているか	4	4
5	教務、財務等の組織整備など意思決定のシステムは整備されているか	4	4
6	業界や地域社会に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	4
7	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	4
8	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3	3
補足・課題等			
<ul style="list-style-type: none">・最低月 1 回開催される管理職会議にて、中・長期及び短期方針を策定し、その内容は全教職員に周知される。学科においては、月 2 回程度の会議または打ち合わせが行われ、必要に応じて問題点の共有及び解決策の検討、重要事項の協議等を図っている。・本校の運営は、学則及び細則等により明確化され、有効に機能している。また、組織図による組織の明確化及び校務分掌による役割の明確化に努めている。・教務、財務等の組織整備等にかかる全体の重要事項については、寄附行為に定める理事会において意思決定、評議員会への諮問等が行われている。理事会及び評議員会は定期的に運営状況の把握を行い、重要事項の協議または周知を図っている。・人事、給与については就業規則及び諸規定によって規定されている。・教育活動等については本校ウェブサイト等により情報を公開している。・情報システムとしては、学籍及び成績管理システムや校内ネットワークシステムを利用したデータの共有など、業務が効率的に運用されている。令和元年度から活用を始めたMicrosoft Teamsも 5 年を経過し、スピードを重視した職員間の意思伝達、データ共有の効率化と現在も有効的に利用している。また、Microsoft Teamsは授業運営、担任業務、就職支援など幅広い範囲で活用されている。			
委員の意見等			
<ul style="list-style-type: none">・自己評価が妥当であるとの評価と、さらに評価を上げるための目標を持っており、今後もしっかりと取り組んでくださいとの意見をいただいた。			

(3) 教育活動

採点	昨年度	今年度
1 教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方策などが策定されているか	4	4
2 教育理念、育成人材像や業界ニーズを踏まえた学科の教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	4
3 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	4
4 キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発等が実施されているか	4	4
5 関連分野の企業、関連施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が実施されているか	3	3
6 関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか	4	4
7 授業評価の実施、評価体制はあるか	4	4
8 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3	3
9 成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4	4
10 資格取得等に対する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	4
11 人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか	3	3
12 関連分野における企業等との連携において優れた教員を確保する等マネジメントが行われているか	3	3
13 関連分野における先端的な知識、技能等を習得のための研修や指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	3	3
14 職員の能力開発のための研修が行われているか	3	3
補足・課題等		
<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の編成にあたっては、各学科が学科目標に沿って体系的に編成した教育課程案を教務部長、学校長が教育理念及び教育目標を踏まえ検討し、その承認をもって決定される。また、教育課程において職業実践専門課程のゲームクリエイタ学科では、教育課程編成委員会等を 設置し、企業等の有識者の意見を踏まえた教育課程の編成を行い即戦力育成に取り組んでいる。 ・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確に定められており、学生に対してはオリエンテーション等で周知徹底を図っている。 ・資格取得支援については、各学科の最終的な目標に合わせ、最も重視する資格の合格に向けた体系的な編成を行っている。 ・本校では、本校教職員としての資質向上を目指し独自に制作した研修資料を配布しており、この内容のもとに新任者研修を行っている。 ・授業展開力の向上のため、本法人3校を広く指導する教員が各教員の指導を行い、年2回（夏・年度末）教職員対象の研修を行っている。 		
委員の意見等		
<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価が妥当であるとの評価と、さらに評価を上げるための目標を持っており、今後もしっかりと取り組んでくださいとの意見をいただいた。 		

(4) 学修成果

採点		昨年度	今年度
1	就職率の向上が図られているか	4	4
2	国家試験または各種資格・検定等の合格率の向上が図られているか	4	4
3	退学率の低減に向けた取り組みが図られているか	4	4
4	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3	3
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	3	3
補足・課題等			
<p>・就職率の向上に向けて、本校が主催する企業説明会をはじめ、個別での校内説明会など分野の動向に合わせた活動を展開している。 令和5年度就職希望者の就職率は100%である。</p> <p>・各種資格・検定等の対策として、授業だけでなく放課後や長期休業中等の時間を活用した補講を行うことで、さらなる合格率の向上を目指している。</p> <p>・退学率の低減に向けては、クラス担任制を採用し、各担任が学生の状況の把握に努めている。各授業担当者との連携も重視し、問題の早期発見と対応につなげている。また、学生の生活上の諸問題等についても、可能な限り家庭と共有して退学率の低減に努めている。</p> <p>・卒業生については、数年に1度「同窓会だより」を発刊し、本校卒業生の活躍の状況や各学科の状況を共有できるようにしている。</p>			
委員の意見等			
<p>・各項目の評価について、委員からの意見・指摘等はなく、自己評価が妥当であるとの評価を受けた。</p>			

(5) 学生支援

採点		昨年度	今年度
1	進路、就職に関する支援体制は整備されているか	4	4
2	学生相談に関する体制は整備されているか	4	4
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	4
4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3	3
5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	3	3
6	学生の生活環境への支援は行われているか	4	4
7	保護者と適切に連携しているか	4	4
8	卒業生への支援体制はあるか	3	3
9	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	4
10	高校、高等専修学校との連携によるキャリア教育、職業教育の取り組みが行われているか	3	3
補足・課題等			
<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアサポート主導のもと、就職説明会や職業研究として各分野に合わせたイベントへの参加等、就職支援の学校行事を充実させている。 ・クラス担任が学生個々の状況を把握し、必要に応じて保護者への連絡、面談等を実施している。さらに、スクールカウンセラーを配置し、学生の希望等に応じて定期的にカウンセリングを受けられる環境を整えている。 ・入学金・授業料等の減免制度（特待生制度）、学納金分納制度等の経済的支援体制を整えており、さらに遠隔地から入学して一人暮らしをする学生に対する家賃補助制度（年間最高 24 万円）や、学生寮の完備で支援している。また、東武伊勢崎線太田駅、JR足利駅、JR籠原駅を発着するスクールバスを運行しており、本校としてできる限りの支援体制を整えている。 ・学生の健康管理では、年に一度健康診断を実施するとともに、初冬にインフルエンザ予防接種の集団接種の実施などを行っている。 ・社会人ニーズを踏まえ、大学卒業生、高資格保有者、本校在校生及び卒業生の子弟等に対して、入学金を減免する特待制度を設けている。 ・高等学校等との連携においては、広報活動の一環として高等学校等を訪問し、高校生に対して専門性を生かした体験授業を行っている。 			
委員の意見等			
<ul style="list-style-type: none"> ・各項目の評価について、委員からの意見・指摘等はなく、自己評価が妥当であるとの評価を受けた。 			

(6) 教育環境

採点		昨年度	今年度
1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	4
2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3	3
3	防災に対する体制は整備されているか	4	4
補足・課題等			
<p>・実習室のパソコンを最新のものへ入れ替えるなど、学科の要請に基づく予算計上及び執行により、計画的に設備の充実に努めている。教室及び実習室は学生 30～50 名が学習可能な広さや機材を確保している。また、授業等に必要な消耗品は教務室に常備されている。</p> <p>・避難経路図を各教室に掲示している。年度初めには災害時の緊急避難に関する資料を配布し、クラス担任が指導を行っている。地震と火災を想定した避難訓練を年2回実施している。校内に自動体外式除細動器を備えている。</p>			
委員の意見等			
・各項目の評価について、委員からの意見・指摘等はなく、自己評価が妥当であるとの評価を受けた。			

(7) 学生の受け入れ募集

採点		昨年度	今年度
1	学生募集活動は適正に行われているか	4	4
2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	4
3	学納金は妥当なものとなっているか	4	4
補足・課題等			
<p>・学生募集においては、学校全体での入学者は4.5%減少した。前年度から若干の減少はあったものの、概ね高校生への訴求、支持の拡大ができたものと認識している。学科コースによって増減に差があるため、それぞれが対策を考える必要性を感じる。</p> <p>・学生募集活動においては、学校案内及び学生募集要項を毎年改訂し入学希望者に配布している。オープンキャンパス（保護者説明会を同日開催することもある）、学校説明会等を開催し、模擬授業や学科コースの内容説明をするなどして本校の教育活動に対する理解を深めてもらっている。その他、高校訪問等をし、在校生の状況や卒業生の就職状況等の報告をしている。</p> <p>・卒業生の進路状況、検定合格率などの教育成果は、オープンキャンパス等での説明、学校案内や本校ウェブサイトへの掲載等の方法で広く一般に公開している。</p> <p>・学納金は、他の近隣専門学校と比較してもほぼ同等額であり妥当といえる。</p>			
委員の意見等			
・各項目の評価について、委員からの意見・指摘等はなく、自己評価が妥当であるとの評価を受けた。			

(8) 財務

採点		昨年度	今年度
1	中長期的に学校の財務基盤は安定していると言えるか	4	4
2	予算、収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	4
3	財務については会計監査が適正に行われているか	4	4
4	財務情報公開の体制整備はできているか	4	4
補足・課題等			
<p>・本校を運営する学校法人太田アカデミーの学費等収入は安定しており、学校運営に十分な状況である。有利子負債の比率もかなり低い水準で推移しており、少子化というリスクは常に存在するが、中長期的に財務基盤は安定していると判断できる。また、本法人及び本校と利害関係のない独立した公認会計士が期中監査として2回、決算監査として1回の会計監査を実施している。会計監査の結果は、本校ウェブサイト上「財務諸表等」の中で会計監査報告書を公開し、第三者が自由に閲覧できる状況となっている。その他の財務情報の公開についても、内容及び範囲等を慎重に判断し、私立学校法第47条の規定に基づいて透明性の高い情報公開を行いたい。</p>			
委員の意見等			
<p>・各項目の評価について、委員からの意見・指摘等はなく、自己評価が妥当であるとの評価を受けた。</p>			

(9) 法令等の遵守

採点		昨年度	今年度
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	4
2	個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか	4	4
3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	4
4	自己評価結果を公開しているか	4	4
補足・課題等			
<p>・個人情報保護については、個人情報保護法改正施行を受けて、本校の個人情報保護規定を改訂施行した。教職員に対しては本校規定に基づき、誓約書の提出を義務付け、また学生を含めて法人全体に意識喚起や徹底を呼び掛けている。</p> <p>・毎年度、学校全体の自己評価を行い、その妥当性及び透明性の確保のため、学校関係者評価委員会を設置して学校外委員の意見を踏まえて報告書を作成し、本校ウェブサイトにて公開している。</p>			
委員の意見等			
・各項目の評価について、委員からの意見・指摘等はなく、自己評価が妥当であるとの評価を受けた。			

(10) 社会貢献・地域貢献

採点		昨年度	今年度
1	学校の教育資源や施設を利用した社会貢献、地域貢献を行っているか。	4	4
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	4
3	地域に対する公開講座、教育訓練の受託等を積極的に実施しているか	4	4
補足・課題等			
<p>・本校施設の外部利用については、地域住民や各団体の要請に基づき、学校長の判断で可能な限り要請に応じる体制をとっているが、令和2年度以降はコロナウイルス感染症拡大の影響で施設利用自体があまり行われなかった。</p> <p>・ボランティアについては新型コロナウイルス感染も落ちつき、地元地域からの依頼も多くなった。</p> <p>ボランティア参加したイベントとしては、太田市開催の「エアロフェス」「JAZZ」「スポレク祭」他複数に及び地域貢献できたと考えている。</p>			
委員の意見等			
・各項目の評価について、委員からの意見・指摘等はなく、自己評価が妥当であるとの評価を受けた。			

以上